

麗澤中学・高等学校 全教室で電子黒板を活用した ハイフレックス型授業を展開中！ 自分を感動させる 生徒主体のICT活用

ゆめ

創造力はICTで育つ！ 理想の自分が見つかるICT教育の事例紹介

麗澤中学・高等学校（千葉県柏市/校長：櫻井 譲）では、生徒が主体的に学ぶことができるICT環境づくりに日々取り組んでいます。2022年9月には、全教室に電子黒板と最新のオンライン授業用機器を常設し、ハイフレックス型授業が可能な環境を実現しました。加えて、全生徒が同時に海外の講師とビデオ英会話ができる強固なネットワークが校内全域に整備されています。他にも、動画やアニメーションの制作、DTM制作ができる高性能ゲーミングPCや本格的な配信機材等も充実しています。

将来に活かせる本物の技術力を養い、創造性・思考力が育つ環境があるのが麗澤の強みです。

中学3年生では、探究学習の一環として、プログラミング言語Pythonを利用した電子工作を行っています。身近な問題を解決できるシステムを生徒自ら考案・設計・構築する授業を展開し、大学入学共通テスト「情報I」を見据えたプログラミング教育を実践しています。

このように、本校で実践しているICT教育の主役は、教員ではなく「生徒」です。その象徴的な取り組みが、有志の生徒で構成される「チームICT」の活躍です。



電子黒板を活用した授業の様子

【ICTの学びによって活躍できる！有志の生徒で構成される「チームICT」】



チームICT 文化祭配信の様子

このチームは、生徒が自主的にICTの活用方法について研究し、様々な取り組みを実施しています。

- ・体育祭や文化祭などのイベントでのライブ配信
- ・ダイジェスト動画の制作
- ・外部コンテストや大会に向けた創作活動やeスポーツの取り組み

これらはすべて、生徒自身の「やってみたい！」という気持ちから実現し、やりたいことができる感動を実感しながら日々成長しています。ICTの主体的な活用を通して、自ら学ぶ力、協業する力が自然と身につく、その経験から、将来の進路を決めた生徒も数多くいます。

情報科主任でDX推進チームゼネラルマネージャーの野口紘司教諭は、「ICT教育はデジタルに重きを置くのが一般的ですが、デジタルネイティブな生徒たちにとっては「アナログの良さ」を知ることがICT教育を行う上では重要です。例えば、相手に感謝の気持ちを伝えるとき、手紙とメール、どちらがより良いのかを考えた際、その時に応じてアナログツールを使うべきか、デジタルツールを使うべきかわ変わります。アナログかデジタルか、どちらがより良いのか瞬時に判断できる力こそが、これからのSociety5.0の社会で求められている能力のひとつと考えています。」とコメントしています。

【麗澤中学・高等学校について】

麗澤中学・高等学校は昭和10年、創立者の廣池千九郎（法学博士）が「道徳科学専攻塾」を現在のキャンパス（千葉県柏市光ヶ丘）に開塾したことから始まります。2015年には中高一貫コースの「叡智コース」を新設。グローバル社会の中で、冷静かつ客観的に物事の本質を見抜き、複雑な諸問題を解決していく総合的な人間力である「叡智」を携えた真のリーダーを育成するため、開校以来、蓄積してきた研究成果と実績を活かし、さらに麗澤らしい教育活動を展開していきます。